

# スキルシェアの位置付けと 持続的幸福感の関係性

## — 副業と趣味の比較検討 —

甲南大学 マネジメント創造学部 准教授

青木 慶

### キーワード

個人知, シェアリングエコノミー, ウェルビーイング, PERMA, ユーザーイノベーション

## I. 研究の背景と目的

本研究は、個人が持ち合わせる知識や経験を、社会で活用することを目指すものであるが、その実現は容易ではない。ユーザーイノベーションの研究 (e.g. von Hippel, 2005) では、個人に粘着するアイデアをどのように引き出すかについて、長年議論されており、ユーザーイノベーターのコミュニティへの参加などが有効な手段であるとされてきた。Aoki (2021) はスキルシェアに、その解決策を見出した。シェアリングエコノミーの発展に伴い、個人のアイデア発信や、収益化が容易になった。個人知の結集とも言えるユーザーイノベーションについても同様であるというのが、その主張である。

さらに、Aoki (2021; 2022) はスキルシェア参画者が報酬を得るのみならず、ウェルビーイングを向上させていることを、ポジティブ心理学における持続的幸福感の概念 (構成要素: Positive emotion, Engagement, Relationship, Meaning, Accomplishment 以降, PERMA) (Seligman, 2011) を用いて、定量的 (Aoki, 2021)・定性的 (Aoki, 2022) に示した。果たしてこれが、収入目的である場合も有効であるのか、というのが本稿で追究する問いである。

## II. 調査概要

本調査では、18-65歳の男女を対象に、スキルシェア参画

者 (n=1031; 副業者 419名, 非副業者 612名) と非参画者 (n=983) を抽出し、以下のデータ分析を行った。

- ① スキルシェア参画者と非参画者の持続的幸福感の比較
- ② (スキルシェア参画者内で) 副業者と非副業者の持続的幸福感・スキルシェア参画へのモチベーションの比較

## III. 調査結果

まず、スキルシェア参画者と非参画者のPERMAの水準を比較したところ、PERMAの5つの要素全てにおいて、スキルシェア参画者が0.1%水準で有意に高い水準を示した。この結果は、重回帰分析を実施して、コントロール変数の影響を除いた場合にも、スキルシェアへの参画がPERMAの各要素に与える影響は、0.1%水準で有意であることが示された。

次に副業者と非副業者のPERMAの水準を比較したところ、PERMAの項目全てにおいて有意差は確認されなかった。また、スキルシェア参画への動機づけについては、10項目中、「他者貢献」(p<0.05)と「報酬」(p<0.001)について、副業者が非副業者より有意に高いことが示された。

最後に、どのような動機づけによるスキルシェアへの参画が、持続的幸福感に影響を与えるのかを確認するために、PERMAの各要素を従属変数、スキルシェア参画への動機づけとコントロール変数を独立変数として重回帰分析を実

施したところ、「他者貢献」がPERMAの全ての要素に、「楽しい」が5項目中4項目に、有意に影響していることが示された。

von Hippel, E. (2005). *Democratizing Innovation*, Cambridge, MA: MIT Press.

#### IV. 結論とインプリケーション

以上の調査結果から、収入目的であろうと、趣味や楽しみであろうと、自身の知識や経験を活用して、誰かの役に立つことにより、人はウェルビーイングを向上させることができるものと結論づける。調査を通じて、スキルシェア参加者は自身が楽しみながら他者に貢献することで、持続的幸福感を向上させていることが示された。つまり、スキルシェアが報酬を得ながら他の人に貢献することのできる副業になり得ることが示唆された。

国内では政策的に副業解禁が進められる一方で、大企業ほど慎重であるという。自社の業務への支障や、ノウハウや信用の流出など、様々な懸念があるとされるが、従業員のウェルビーイング向上に寄与するという点に目を向けると、個人知を開放することは企業にとっても有要ではないか。本研究が、個人にとどまる知を社会に引き出して、知の源泉の多様性を実現する一助となることを願って、本稿の結びとする。

#### 謝辞

本研究はJSPS 科研費 20K13631 の助成を受けたものです。

#### 主要引用文献

- Aoki, K. (2021). The relationship between well-being and knowledge sharing. *Sustainability*, 13(9), 4978
- Aoki, K. (2022). Why Knowledge Sharing Increases Well-being - The Case of Adult Fans of LEGO. Jose C.
- Sánchez-García (2022) *Psychosocial, Educational, and Economic Impacts of COVID-19*, London: InTech Open
- Seligman, M. E. P. (2011). *Flourish: A visionary new understanding of happiness and well-being*. New York, NY: Free Press.